

# Ansible Automates Yamahaモジュールデモ

CC開発部NWソフトG

藤田 尚吾

本社



コントロールノード  
Ubuntu 20.04  
Ansible 2.10.8  
Python 3.8.5



ターゲットノード  
RTX830 A

ターゲットノード  
SWX2310 A



ターゲットノード  
RTX830 B

ターゲットノード  
SWX2310 B



- ヤマハネットワーク機器の SSHサーバー機能 を有効化

設定項目	RTXコマンド	SWXコマンド
管理者パスワード	administrator password	enable password
ユーザー設定	login user	username
SSHホスト鍵生成	sshd host key generate	ssh-server host key generate
SSHサーバー有効化	sshd service on	ssh-server enable

- 初回 SSH 接続時の注意点
  - コントロールノードの ~/.ssh/known\_hosts にターゲットノードのホスト鍵が登録されていない場合、ansibleでSSH接続に失敗する。
  - 対策：ansible.cfg でホスト鍵の確認を無効にするか、事前にSSH接続しておくこと。

各拠点のネットワーク稼働状態を一括で取得し、ファイルとして保存する

## 1. 稼働状態を取得するためのコマンドを実行する

### • ルーター

- ✓ システム状態 : show environment コマンド
- ✓ LANインターフェース情報 : show status lan1 コマンド
- ✓ VPNトンネル情報 : show status tunnel 1 コマンド

### • スイッチ

- ✓ システム状態 : show environment コマンド
- ✓ インターフェース情報 : show interface コマンド
- ✓ フレームカウンター : show frame-counter コマンド

## 2. ファイルとして保存する

問題発生時にSYSLOGのDEBUGレベルログを有効にし、本社のSYSLOGサーバーに送信する

## 1. SYSLOGサーバーとSYSLOGレベルの設定コマンドを実行する

- ルーター

- ✓ SYSLOGサーバー設定 : syslog host コマンド
- ✓ DEBUGログ出力有効化 : syslog debug コマンド

- スイッチ

- ✓ SYSLOGサーバー設定 : logging host コマンド
- ✓ DEBUGログ出力有効化 : logging trap debug コマンド

## 2. 設定が反映されたことを確認する

./demo/

└ inventory.ini      **インベントリファイル** : ターゲットノードを指定する

└ group\_vars  
  └ rtx.yml      **インベントリ変数 (グループ変数)** :  
  └ swx.yml      グループごとに使用するモジュールなどを指定する

└ host\_vars  
  └ rtx830\_a.yml      **インベントリ変数 (ホスト変数)** :  
  └ rtx830\_b.yml      ホストごとにIPアドレスやSSHパスワードなどを  
  └ swx2310\_a.yml      指定する  
  └ swx2310\_b.yml

└ playbook\_get\_statistic.yml      **プレイブック** :  
└ playbook\_set\_syslog.yml      Ansibleで実行したい処理を記述する

└ templates

  └ ... # ルーターとスイッチのコマンド用テンプレートファイル

- [1] 北山 晋吾/佐藤 学/塚本 正隆/畠中 幸司/横地 晃 著  
『Ansible 実践ガイド 第3版』インプレス社, 2019



